

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	読書啓発事業						担当部	教育委員会事務局							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	図書館							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	図書係							
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		16 生涯学習		3 図書館サービスを充実します									
		副目的														
	予算区分	款	10		項	5		目	8		大	2		中	3	
	根拠法令・個別計画	図書館法、小牧市子ども読書活動推進計画、小牧市次世代育成支援対策行動計画														
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	各種行事を開催することで乳幼児期から図書に親しむ機会を提供するとともに、小中学校図書館の支援、ボランティアの協力による「読み聞かせ」などの事業を実施することにより、自発的な読書活動ができるような環境を整備する。														
	内容 (手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児・児童及びその保護者を対象とする各種講座を開催し、読書の効果や楽しみを伝える機会を設けた。 ・保健センターでの4か月検診時に、絵本を通じた親子の交流を図るため、ブックスタート事業として絵本のプレゼントとボランティアによる読み聞かせを行った。 ・小中学校図書館へ司書資格者(臨時職員)を派遣し、学校図書館運営事務や、専門的知識を生かして児童・生徒への図書内容紹介や読み聞かせ等の読書支援を行った。 ・読み聞かせボランティアを養成し、子どもに対する読み聞かせ機会が充実していくようにした。 ・業務分担として、正職員は年間事業や講座の企画立案から実施、年間に受入れる児童書の選定及び予算執行、各臨時職員やボランティア活動の指導・対応等を行い、読み聞かせ等の児童サービス行事や施設配本団体の希望する図書の選定を実施し、小中学校図書館の運営事務については、司書資格を持つ臨時職員やボランティアと連携しながら行った。 ・講座については、ボランティア養成や絵本に関する講座を実施した。 <p>※H25直接経費の内訳 消耗品費 1,784千円 講師謝礼 300千円 映画フィルム借上料 141千円 その他ボランティア謝礼等 416千円</p> <p>※H26直接経費の内訳 消耗品費 1,785千円 講師謝礼 300千円 映画フィルム借上料 154千円 その他ボランティア謝礼等 287千円</p>														
	受益者負担	無														

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	2,457	2,454	2,641	2,526	
		正職員	従事者数	人	0.76	0.76	0.76	0.76
			人件費	千円	3,997	3,997	3,997	3,997
		その他職員	従事者数	人	13.00	13.00	13.00	13.00
			人件費	千円	17,291	17,252	17,617	17,954
	費用合計	千円	23,745	23,703	24,255	24,477		
対前年比	%			99.8	102.3	100.9		
財源	一般財源	千円	23,745	23,703	24,255	24,477		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	績	ブックスタート事業	回	目標	48	48	48
実績				48	48	48	
施設巡回図書配本事業		回	目標	280	250	250	250
			実績	218	235	244	
子ども・親子・ボランティア向け講座		回	目標	9	9	9	9
			実績	8	10	7	
成果指標名	単位		H23	H24	H25	H26	
施設巡回図書配本冊数	冊	目標	23,000	23,000	29,000	30,000	
		実績	23,248	29,312	31,067		
各講座参加者数	人	目標	300	300	300	250	
		実績	232	283	202		

事業の自己評価	平成25年度の実施結果	事業の達成状況	読書啓発に係る各行事等を予定どおり行うことができ、施設巡回配本では、市内各児童クラブや放課後子ども教室等を含め、各施設に対して希望に沿った配本を行い、目標冊数を上回ることができた。 これら年間をととしての各行事や事業において、子どもの成長過程や生活圏域に合わせた図書に親しむ機会の充実や読書啓発を支えるボランティア育成などを図ることができた。				
		事業実施における課題	講座参加者が目標に達しなかった。体験、実技型の講座は多かったが、教養的な講座の参加者が少なかった。今後は企画内容、テーマ設定などを検討する必要がある。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	将来を担う子どもたちに対する読書習慣づけや、図書館利用者の裾野を広げていく図書館行政の根幹が失われてしまう。				
	平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	現在、国や県の計画に沿った小牧市子ども読書活動推進計画(第2次)を実施中である。この計画内容を実現していくため、今後も、お話し会、絵本紹介、ボランティア養成などの行事や講座についてより効果的な企画を実施し、また、施設の希望に合う配本も積極的に展開し、読書啓発を図っていく。				
	平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)			
	判定理由	読書啓発事業は、国の「子どもの読書活動推進に関する法律」の趣旨に沿い、特に将来を担う子どもを育成していく極めて責任ある事業であり、当市はその地道な各事業や行事を継続して実施できている。					
	27年度以降の改善案	引き続き小牧市子ども読書活動推進計画(第2次)に沿って、今後も、お話し会、絵本紹介、ボランティア養成などの行事や講座についてより効果的な企画を実施し、参加者の幅を広げていく。また、施設の希望に合う配本も積極的に展開し、読書啓発の推進を図っていく。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。